

地震に備えよう!

震度階級表

(気象庁「気象庁震度階級関連解説表」より)

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	—	—
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	—	—
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	—
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5強	大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7		固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛びこえるものもある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

地震に備える

地震は、大きな破壊をもたらすおそれのある自然災害で、いつ、どこで起こるか予測ができません。被害を最小限に食い止めるため、身の回りの危険箇所を見直し、事前に安全対策をしておきましょう。

家の中の安全対策

家具を安全に配置する

できるだけ人の出入りが少ない部屋に家具をまとめましょう。寝る部屋に家具を置く場合は、体の上に倒れてこないように配置しましょう。

通路や出入り口に荷物を置かない

いざというときの避難経路を確保するために、玄関、通路や出入り口にはできるだけ荷物を置かないようにしましょう。

窓ガラスに飛散防止フィルムをはる

窓はもちろん、食器棚や額縁などに使われているガラスにも忘れず飛散防止フィルムをはりましょう。

家具の転倒や落下を防止する措置をとる

家具と壁や柱の間に空間をつくらないようにしましょう。またL字型金具や重ね留め用金具、家具の転倒防止シートなどを利用して転倒や落下を防ぎましょう。

寝室や子ども、高齢者の部屋には倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震が発生した場合、子ども、高齢者、病人などは倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れるおそれがあるので十分に注意しましょう。

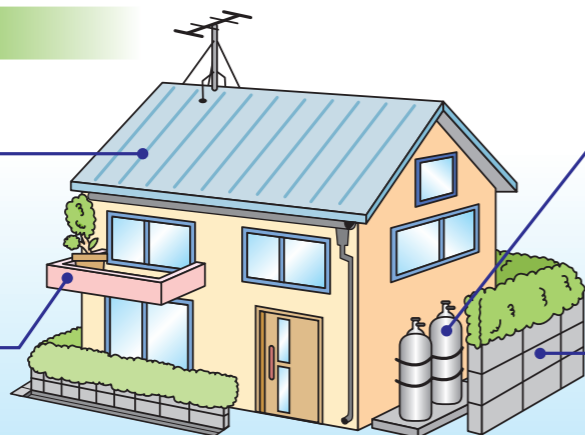
家の外の安全対策

屋根

- 瓦にひび割れ、ずれ、はがれがあれば補強する。
- アンテナはしっかり固定する。

ベランダ

- ベランダは常に片づける。
- 植木鉢や物干しざお等飛散の危険があるものは、落下しないよう低い位置に置く。



プロパンガス

- ボンベを鎖でしっかりと固定しておく。

ブロック塀

- ひび割れや傾きがあれば修理・撤去する。
- 土中にしっかりと基礎部分がないものや、鉄筋が入っていないものは専門家に相談する。

地震が来たら

地震発生時に自宅にいるときの行動

強い揺れが始まる直前に「緊急地震速報」が、テレビ、ラジオなどを通じて流れます。

地震発生

- **落ち着いて、まずは自分の身を守る**
机の下などへもぐり、倒れてくる家具や落下物に注意する。
- **脱出口を確保する**
ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- **火の始末をすばやく**
コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。
- **あわてて外に飛び出さない**

1~3分

- **揺れがおさまったら、火の元を確認する**
出火があれば、落ち着いて初期消火する。
- **家族の安全を確認**
倒れた家具などの下敷きになっていないか、けが人がいないかを確認する。
- **靴をはいて、逃げる準備を**
ガラスの破片などから足を守る。靴がなければ厚手のスリッパで代用する。

3~5分

- **非常用持出品を準備する**
- **隣近所の安全を確認**
一人暮らしの高齢者や高齢者世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。必要があれば避難の補助を。
- **ラジオなどで情報を確認**
間違った情報や噂などにまどわされないようにする。

5~10分

- **電話は控える**
- **家を出る前に出火防止策を**
ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを切る(通電火災対策)。
- **避難するときは、車は使わない**

10分~数時間

- **消火・救出活動**
隣近所で協力して消火や救出活動をする。
- **生活必需品は備蓄でまかなう**
- **災害情報、被害情報の収集**
町の広報等に注意する。
- **壊れた家には入らない**
- **自主防災組織を中心に行動する**
- **協力し合って集団生活のルールを守る**

地震発生時に外出しているときの行動

● 鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかり掴まる

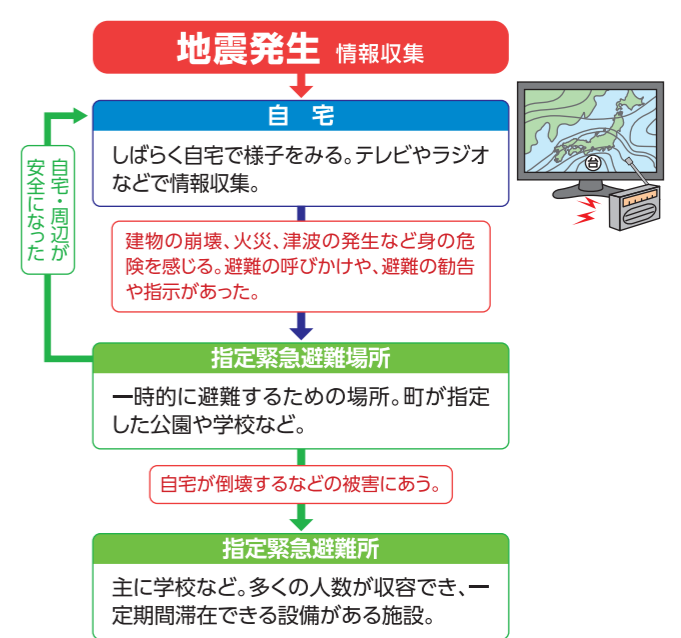


● エレベータでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる



地震発生時の避難



● 緊急地震速報とは

緊急地震速報とは、地震の発生直後に、震源近くで地震波をキャッチし、強い揺れが始まる直前にすばやくお知らせするものです。最大震度5弱以上が推定される場合に、震度4以上が予想される地域に対してテレビやラジオ、防災行政無線などを通じて、「もうすぐ揺れること」が伝えられます。緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間は、数秒~数十秒しかありません。自分の身を守ることを優先して行動しましょう。

◎震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。



● 屋外(街)では

- ブロック塀の倒壊や看板、割れたガラスの落下に注意



● 自動車運転中は

- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度を落とす。ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす

